

## 2010年度第5回FD研究会の開催報告について

本学の学生の多くは、高校までの受身の学習姿勢を変えないこと（＝変える機会や場を与えられず）、十分な人間力・就業力を身に付けずに卒業を迎えてしまう、という実態がある。この問題を解決するため、つまり、学生を主体的な学び手に変革し、社会が必要とする人間力と専門性を身に付けさせるための手法として、「グループ学習」に着目した。そこで、「グループ学習」を実践されている先生の経験や課題意識を題材に研究会を開催する。

### 【開催概要】

テーマ：「グループ学習」を取り入れた授業改善について考える

日時：2011年3月9日（水）10:00～正午

対象：専任教職員ならびに非常勤講師



### 【プログラム概要】

10:00～10:50 講演「大人数グループワーク科目は初年次生に何をもちたらすか？」

講師：辻 義人氏（小樽商科大学 教育開発センター）

10:50～10:40 本学における実践報告

報告者：佐野 友泰氏（人文学部 臨床心理学科）

「一年次ゼミナールにグループワークを導入した試み」

水島 梨紗氏（人文学部 英語英米文学科）

「英語専門科目におけるグループワーク導入の試みについて」

11:40～ 正午 フリーディスカッション

### 【獲得目標】

- ・「グループ学習」に多様な形態があることを知る
- ・「グループ学習」の教育的効果（期待される成果）を理解する
- ・「グループ学習」の実践にあたって考慮・留意すべき事項について認識を深める
- ・「グループ学習」を取り入れた授業デザインに関するヒントを得る

### 【開催報告】

詰め込み式で答えを与えられる学習形態に慣れている今日の学生を、能動的・主体的な学び手・人間に育てるための効果的方策のひとつとして、グループワークがある。

今回の研究会では3つのグループワーク実践例を紹介いただき、グループワークに関する理解を深めた。どの事例にも共通して言えることは、達成すべき目標が明確であること。その目標達成のための適切な手段としてグループワークが取り入れられている。



グループワーク実施に当たってはその目標を学生と共有することが重要である。学習を通して自分自身にどんな力が身につくのか、ということを含め明確にし、それを意識させることで、積極的にグループワークに参加しようという動機付けを行うことができる。また、学生はグループワークを通して自分とは異なる他者の存在を認め、尊重し合い、更には自己への気づきが深まることが期待される。

グループワークの運用は周到な準備と大きな労力が必要である。想定されるメリット・デメリットを事前に把握し、実践後には効果測定・課題検討を行うことで、グループワークの方法を洗練させていくことが必要となるだろう。